

萩原 朔美 / Sakumi Hagiwara

1946 年 東京生まれ

【受賞】

1971 年 APA 映像部門秀作賞

1976 年 長岡現代美術館賞受賞

1996 年 NHK 局長賞 - NHK ハイビジョン「彫刻家 流政之の世界」

1997 年 オーバーハウゼン国際短篇映画祭入選

【所蔵】

いいづなアップルミュージアム

九州工芸大学

神戸芸術工科大学

世田谷区美術館

多摩美術大学

徳島県文化の森

東北芸術工科大学

東京都現代美術館

栃木県立美術館

長岡現代美術館

新潟近代美術館

福岡市総合図書館

前橋文学館

武蔵野美術大学

横浜美術館

【個展】

- 2021年 私がいる。(Place M)
- 2020年 萩原朔美定点観測シリーズ展(阿佐ヶ谷アートストリート2020)
- 2019年 萩原朔美の仕事 Vol.2 定点観測展 いつまでも、あると思うな親と我(前橋文学館)
- 2018年 萩原朔美 映像展 1971年～2018年(art space kimura ASK?)
- 2017年 萩原朔美の仕事展(前橋文学館)
萩原朔美作品展(art space kimura ASK?)
- 2016年 萩原朔美写真展(Place M / RED photo Gallery / Tokyo Lightroom)
心の郷愁を撮りたい-100年間の定点観測-朔太郎・朔美写真展(前橋文学館)
- 2014年 名瀑跡(studio sori)
- 2012年 朔太郎・朔美写真展 朔太郎が切り取った風景を求めて(前橋文学館)
- 2010年 観覧車(ART SPACE 煌翔)
- 2003年 ガラス絵小品展 MOVIE(秀友画廊)
- 1984年 萩原朔美写真集出版記念展(ワタリウム美術館オン・サンデー)
PRINT.VTR.BOX 萩原朔美個展(スペース・ニキ)
萩原朔美新作コラージュ展(ギャラリーカフェ グレル)
- 1983年 BLACK&WHITE OF EXHIBITION INTERNATIONALS(東京セントラル絵画館)
- 1982年 アップル・イメージの成熟(青画廊)
- 1981年 萩原朔美版画展(京都プラスティックスペース)
- 1980年 第四回版画個展(青画廊)
- 1979年 萩原朔美版画個展(岐阜パルコ パルコギャラリー)
造本計画・36種類(ギャルリーワタリ)
Prints Exhibition(青画廊)
- 1976年 萩原朔美展 PASSING THROUGH-写真とビデオとシルクスクリーン(ギャルリーワタリ)
第三回版画個展(ギャルリーワタリ)
- 1975年 第二回版画個展(ギャルリーワタリ)
- 1974年 第一回版画個展(JUN アートギャラリー)
萩原朔美カレンダー展(JUN アートギャラリー)

【主なグループ展】

- 2022年 重ねる・る (自由空間 Art Step)
- 2021年 萩原朔美×三宅章介展 反復と差異 (ルーメン・ギャラリー)
多摩美の版画 50 年展 (多摩美术大学美術館)
- 2020年 重ねる展 (自在空間 art step)
分離派建築会 100 年展 建築は芸術か? (パナソニック汐留美術館、京都国立近代美術館)
- 2019年 DECODE/出来事と記録ーポスト工業化社会の美術 (埼玉県立近代美術館)
鉛筆と消しゴム 田村セツ子・内藤正彦・萩原朔美展 (ART SPACE 烜翔)
- 2017年 パロディ、二重の声-1 日本の一九七〇年代前後左右 (東京ステーションギャラリー)
- 2016年 定点撮影写真展 (桐蔭学園アカデミウム)
ビデオひろば -1970 年代の実験的映像グループ再考 (森美術館)
Photographic Images and Matter-Japanese Prints of the 1970s (京畿道美術館、釜山市立美術館)
阿佐ヶ谷アートストリート 2016Pureism (阿佐ヶ谷アートストリート)
- 2014年 福島ビエンナーレ (道の駅あいづ湯川・会津坂下)
わが友ウォーホル~X 氏コレクションより (ギャラリーときの忘れ物)
- 2013年 書物のエロティックス展 (ART SPACE 烜翔)
- 2012年 日本の 70 年代 1968-1986 (埼玉県立近代美術館)
キラリ ヒカリ ユラリ (多摩美术大学上野毛校舎)
- 2011年 サルからヒトへ、そしてスペクタクルの社会画像進化論 - メディア的進化と創造的退行のダイナミズム展 (茨城県立美術館)
- 2010年 音楽と絵画 韶 (秀友画廊)
えんぴつの魅力についての断想展 -官製はがきの宇宙 (NHK 甲府放送局 NHK ハートプラザ)
126 POLAROID -さよならからの出会い (横浜美術館)
- 2009年 さよならポラロイド (ART SPACE 烜翔、カフェショコラ、ギャラリー井上)
写真の時間 (新宿眼科画廊)
- 2005年 りんごの秘密-描かれた禁断の果実・デューラーからセザンヌ、劉生へ- (広島美術館)
- 2004年 現代作家によるガラス絵 (秀友画廊)
- 2002年 ポラロイドの世界 -時を超えて- (ポラロイドギャラリー)
長岡現代美術館賞回顧展 1964-1968 (新潟近代美術館)
- 1997年 詩人によるアートフェスティバル (アートミュージアム・ギンザ)
- 1996年 詩人によるアートフェスティバル (アートミュージアム・ギンザ)
- 1995年 現代美術の流れ (東京都現代美術館)
戦後文化の軌跡・映像表現の戦後 (目黒区美術館)
詩人によるアートフェスティバル (アートミュージアム・ギンザ)
日本の実験映画 (東京都現代美術館)
- Japanese Art After 1945 : Scream Against the Sky (サンフランシスコ近代美術館)
- 1994年 Japanese Art After 1945 : Scream Against the Sky (グッケンハイム美術館)

日常を見つめる視線（横浜美術館）

- 1994年 詩人によるアートフェスティバル（アートミュージアム・ギンザ）
- 1993年 動く絵展（キリンプラザ大阪、徳島21世紀館、名古屋市美術館、シードホール東京、岡山県立美術館）
- 1992年 版画3人展（高円寺画廊）
- 動く絵展（広島現代美術館、高松市美術館、横浜美術館）
- 1991年 ミニ・プリント展 新しい版の表現（高円寺画廊）
- 1990年 静物（静岡県立美術館）
- ビデオが切りとる日常（北海道立近代美術館）
- 1989年 映像、実験の100年（北海道立近代美術館）
- 1987年 日本実験映画の歴史展（ポンピドゥーセンター）
- 当世風芸術帖紙（GALLERY360°）
- 1986年 アーティスト・ブック・ジャパン（フランクリン・ファーネス）
- 現代版画の軌跡-43名の作家による戦後の版画のあゆみ（福島県立美術館）
- 1985年 アーティスト・ブック展（フジテレビギャラリー）
- 日本の前衛未来展（ジェノバ市民ホール）
- 日本実験映画20年展（埼玉近代美術館）
- 第二回アジア美術展（福岡市美術館）
- 1984年 小さな小さな大展覧会（青画廊、ギャラリー安里）
- 1983年 BLACK & WHITE OF EXHIBITION INTERNATIONAL（東京セントラル絵画館）
- 第二回現代芸術祭-芸術と工学（富山県立近代美術館）
- 国際アーティストブック展（ルミナ画廊、NHK福井ギャラリー、札幌NDA画廊、ケンハウス、宮崎県立図書館）
- 1982年 第4回シドニービエンナーレ
- 第7回イギリス国際版画ビエンナーレ（カートライトホール）
- 1981年 明日の美術館を求めて（兵庫県立美術館）
- 世界の現代版画25年展（東京都立美術館、栃木県立美術館、広島県立美術館）
- 1980年 1980年日本の版画（栃木県立美術館）
- 1979年 リュブリアナ国際版画ビエンナーレ（リュブリアナ近代美術館）
- 第11回東京国際版画ビエンナーレ（国立近代美術館）
- 1978年 日独ビデオ・アート展（NHK宮崎）
- 1977年 現代美術の鳥瞰展（京都国立近代美術館）
- 1976年 第10回東京国際版画ビエンナーレ（国立近代美術館）
- 1975年 ビデオ・アート展
(フィラデルフィア現代美術館、シンシナティ現代美術センター、シカゴ現代美術館、ワズワース・アテネウム美術館)

【上映】

- 2022年 Films DAZER IN TOKYO (Feb Gallery Tokyo)
- 2019年 Place M Film Festivals (Place M)
- 2018年 イメージフォーラムフェスティバル 2018 (スパイナル)
日本・スウェーデン国交 150 周年
- 2017年 イメージフォーラムフェスティバル 2017 (イメージフォーラム)
- 2016年 インディペンデント映画祭『萩原朔美監督特集』(南青山 MANDALA、吉祥寺曼荼羅)
イメージフォーラムフェスティバル (イメージフォーラム)
- 2015年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 2014年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 2013年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 2012年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
Possible water 〈コモンズ〉としての未来 (ドイツ文化センター)
アナーバー映画祭
- 2011年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
東京アヴァンギャルド! (代官山 山羊に聞く)
萩原葉子~出発に年齢はない~ (世田谷文学館)
- 2010年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 2009年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 2008年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 2007年 イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
水の映画会 (横浜美術館)
- 2005年 ヴィジョン・デュ・レール映画祭
山形国際ドキュメンタリー映画祭
- 1997年 第 53 回オーバーハウンゼン国際短編映画祭 (グッケンハイム美術館)
- 1996年 日本実験映像 (ニューヨーク・ミレニウム)
- 1995年 日本の実験映画 (調布グリーンホール)
バンクーバー国際映画祭 (カナダ)
ロッテルダム国際映画祭 (オランダ)
イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 1994年 イメージフォーラムフェスティバル (西武シードホール)
- 1992年 イメージフォーラムフェスティバル (西武シードホール)
- 1990年 90 年 Japanese Experimental Filems (国際文化会館)
イメージフォーラムフェスティバル (新宿パークタワーホール)
- 1989年 日本の映像 30 年史 (西武美術館スタジオ 200)
- 1988年 日本の実験アニメの現在 (○美術館)

- イメージフォーラムフェスティバル（西武シードホール）
- 1987年 ジャパニーズ・アヴァンギャルド・シネマ（ニューヨーク近代美術館）
イメージフォーラムフェスティバル（新宿パークタワーホール）
- 1986年 第五回実験映画祭（兵庫近代美術館）
- 1985年 日本映画祭（ショーベルシネマ）
AFI 全米ビデオフェスティバル（アメリカ）
- 1984年 第40回オーバーハウンゼン国際短編映画祭（グッケンハイム美術館）
日本のアブストラクトシネマ（イメージフォーラム）
日本実験映像40年史（キリンプラザ大阪）
戦後日本の前衛美術（横浜美術館（横浜））
日本の実験映画（パリ大学サンシャルル・シネマテーク）
フリルジュ実験音楽祭（フランス）
エジンバラ国際映画祭（イギリス）
第四回オスナブリュック実験映画祭（ドイツ）
ロスアンゼルスオリンピック記念国際ビデオフェスティバル（アメリカ）
萩原朔美ビデオ上映会（JICQ PLAZA（東京））
- 1983年 香港国際ビデオ展（香港、中国）
日本の実験映画 1960~1980 展（全米巡回）
オタワ国際ビデオフェスティバル（オタワ、カナダ）
カナダ国際ビデオフェスティバル（オタワ、カナダ）
- 1980年 萩原朔美ビデオ集（四谷イメージフォーラム）
- 1979年 日本のビデオ展
(George Paton gallery, Contemporary Art Society, Burnie Art Gallery, Wollongong City Art Gallery)
ジャパニーズ・エクスマントル・フィルム（ポンピドゥーセンター）
- 1978年 日独ヴィデオ・アート展（NHK 宮崎放送局（宮崎）、真木画廊）
- 1977年 日独ヴィデオ・アート展—新しい認識への道（福井県立美術館）
福岡ドイツ文化月間 ヴィデオ・アート展（福岡県文化会館）
- 1976年 ドクメンタ（ドイツ）
今日の空間展（横浜市民ギャラリー）
- 1975年 東京展（東京都美術館）
倫巴里社シネマテーク アンソロジー（イタリア会館）
倫巴里社シネスラーク個展（京都大学）
WADSWORTH ANTHENEUM（コネチカット、アメリカ）
CONTEMPORARY ART CENTER（オハイオ、アメリカ）
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART（シカゴ、アメリカ）
- 1974年 ビデオ・ウィーク（アメリカンセンター）

アンダーグラウンド・シネマ新作展第三回（安田生命ホール）
なぜ映画か？（厚生年金会館小ホール）
異形のサークル・10人の作家達（砂防会館ホール）
アメリカン・ビデオ（アメリカンセンター）
第14回セント・ジュード・招待ビデオ・ショー（サンタ・クララ大学デ・サセット美術館）
TOKYO - NEW YORK ビデオエキスプレス（天井桟敷館）
フィルム個展（ジャンジャン）
TONE FIELD4（エスパースジロー）
アンダーグラウンド・シネマ新作展第二回（安田生命ホール）
1st.100 フィートフィルムフェスティバル（イタリア会館、TFO 七ツ寺共同スタジオ、札幌道新ホール）
ヴィデオ/京都/1974（ギャラリーシグナム）
1st.100 フィート フィルム フェスティバル（砂防会館ホール）
1973年 アンダーグラウンド・シネマアンソロジー（信州大学、神戸大学、TFO 七ツ寺共 同スタジオ）
COMMUNING（天井桟敷館）
1972年 アメリカの映像作家（アメリカ文化センター）
開かれた網膜・わしづかみの映像=ビデオ・ウィーク（アメリカンセンター）
1971年 ビデオコミュニケーション（ソニービル）
FORUM POUR UNE AVANTGARDE（アテネフランス文化センター）
1968年 フィルム・アンデパンダン（天井桟敷館）

【上演】

- 2022年 朗読 第50回 萩太郎忌 謎めぐり「月に吠える」の事件簿（昌賢学園まえばしホール／出演）
朗読劇 真下章・梁瀬和男「豚と自転車」（前橋文学館／出演）
公園のおはなし会 ドロップス+萩原朔美（フリツツ・アートセンター／出演）
コーヒー・セレンディピティ -上州熟成豆縁起（群馬県民会館／出演）
岸田将幸『風の領分』を読む（前橋文学館／出演）
- 2021年 寺山修司朗読劇 大久保千代太夫一座（新宿のタイニイアリス／出演）
劇団ザ・マルク・シアター アンジー（高崎芸術劇場／演出）
第49回 萩原朔太郎忌「月に吠えらんねえ」朗読劇（群馬テレビ／出演）
まだその名を知らぬ冠を手に入れた（白井屋ホテル／出演）
夢よ、氷の火ともなれ（せむし役）
- 2020年 ラヴ・レターズ（前橋文学館／出演）
春を呼ぶ人情嘶（前橋文学館／出演）
昨日ヨリモ優シクナリタイ -和合亮一を読む-（前橋文学館／出演）
- 2019年 孤児の処置（前橋文学館／出演）
詩を声に翻訳する一歌い、叫び、演じ（群馬県立土屋文明記念文学館／出演）
犬神（前橋文学館／出演）
夢はいつもかえっていった～立原道造と演奏会（前橋文学館／出演）
ラヴ・レターズ（前橋文学館／出演）
接吻（前橋文学館／出演）
- 2018年 朗読 萩原朔美が選ぶ朔太郎詩～「旅上」篇～（昌賢学園まえばしホール／出演）
群馬のものがたり 指揮する朔太郎
イエスタディ（前橋文学館／出演）
寺山修司リーディング（前橋文学館／出演）
ポエトリー・リーディング in 前橋文学館（前橋文学館／出演）
- 2017年 夜汽車の人-萩原朔太郎の愛と詩の生涯-（前橋文学館／出演）
犬狼都市一キュノポリス（芝居砦・満天星／出演）
萩原朔太郎 詩集『月に吠える』全編朗読（前橋文学館／出演）
イエスタディ（ATAMATOTE／浦田源一役）
- 2016年 清水邦夫の劇世界を探る（多摩美術大学／浦田源一役）
- 2006年 山月記（鍛仙会能楽研修所舞台／演出）
- 1992年 オペレッタ 注文の多い料理店（日暮里サニーホール／演出）
- 1991年 オペラ千恵子抄（日暮里サニーホール／演出）
- 1990年 弱法師（三百人劇場／演出）
- 1989年 オペラ千恵子抄（草月会館ホール／演出）
- 1988年 葵上（三百人劇場／演出）

1986年 サティー・サーカス風演出によるシェークスピア（渋谷パルコスペースパート3／演出）

1985年 ホス（パルコ西武劇場／演出）

1984年 時代はサーカスの象にのって（渋谷パルコスペースパート3／演出）

1967年 青森県のせむし男（草月会館ホール・アートシアター新宿文化／天井桟敷旗揚げ公演／出演）
大山デブコの犯罪（新宿末広亭／舞台監督）
毛皮のマリー（アートシアター新宿文化／欣也役）
花札伝綺（草月会館ホール／演出助手）

1970年 毛皮のマリー（名古屋モダン縁日演芸場／演出）
時代はサーカスの象にのって（神戸芦屋ルナホール／演出）
ミュージカル僕がうたうとき フォーリーブスリサイタル（日生劇場／演出）
書を捨てよ町へ出よう（神戸ルナホール／演出）

1969年 星の王子さま（アートシアター新宿文化／演出助手）
時代はサーカスの象にのって（天井桟敷地下劇場／演出）
毛皮のマリー（ドイツ フランクフルト（国際実験演劇祭招待作品／演出）
犬神（ドイツ フランクフルト／国際実験演劇祭招待作品／出演）
書を捨てよ町へ出よう（名古屋モダン縁日演芸場・京都新聞会館ホール・札幌パークホテル大ホール／演出）

1968年 新宿版千一夜物語（新宿厚生年金会館小ホール／演出助手）
新宿ユリシーズ（3月新宿モダンアート）
伯爵令嬢小鷹狩掬子の七つの犯罪（日仏会館ホール・新宿厚生年金会館小ホール／演出）